

～ 健口と輝く笑顔のために～ ASSOCIATION

歯科衛生だより

発行人/吉田 直美
 発行/公益社団法人 日本歯科衛生士会
 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19
 TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023
<https://www.jdha.or.jp/>

2024 October vol.83

世界中でつながる歯科衛生士

公益社団法人 日本歯科衛生士会 副会長 久保山 裕子

世界の歯科衛生士との情報交換

2024年7月8日(月)から10日(水)にかけて韓国(ソウル)において、2024年国際歯科衛生士連盟加盟国代表者会議(HoD会議)が開催されました。本会からは、吉田直美(会長)、筆者:久保山裕子(副会長)が出席し、小林ノリヨ(事務主任)が通訳として同行しました。

国際歯科衛生士連盟(IFDH:International Federation of Dental Hygienists)は、1986年6月28日にノルウェーのオスロで正式に設立、IFDHの前身である国際歯科衛生連絡委員会は、1973年にヨーロッパ諸国、米国、カナダ、日本によって設立されていました。

現在、30か国、90,000人の歯科衛生士が会員です。IFDHの目的は歯科衛生士のリーダーシップとコラボレーションを促進すること、口腔衛生・教育・研究・実践を推進することです。また、世界中の口腔の健康の提唱者であるという認知度を高め、口腔の健康は、全身の健康に重要な影響を与えているため、口腔の健康を予防することによって人々の健康を守ることです。そのために世界中から集まり、歯科衛生士にできることについて熱く討議します。2年に1回行われていますが、先回は新型コロナウイルス

感染症の影響があり日本は参加できませんでした。今回は日本をはじめ、20か国の参加がありました。各国の歯科衛生士の活動を報告する場面がありましたが、日本からは「歯科衛生士の基礎教育について」、「コロナ禍のeラーニングによる研修支援について」、「認定制度について」を報告しました。加えて今年初めに発生した能登半島地震での歯科支援チームとしての災害支援活動についても報告しました。



(右から)吉田会長、小林主任(事務局)、筆者

歯科衛生士に関わる制度などは国によって違いはありますが、どの国でも、口の健康を守ることを自分たちの使命と感じて仕事をしていることがわかりました。

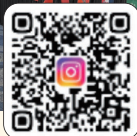


大韓歯科衛生士協会 会長 ファン・ユンスク氏(左)と
 日本歯科衛生士会 会長 吉田 直美

現地では各国相互のお土産交換が盛んで、吉田会長も折り紙で交流を図りました。



HoD会議



お口の健康を守る者としての知識を蓄える

会議と併せて、7月11日(木)から13日(土)までの3日間、「2024年国際歯科衛生シンポジウム(ISHD 2024: International Symposium on Dental Hygiene 2024)」がIFDHおよび大韓歯科衛生士協会の主催で開催されました。会場は、ソウル・江南(カンナム)にあるCOEX(コエックス・コンベンションセンター)で、2010年には「G20サミット首脳会議」も開かれた場所です。



ISHD2024開会式★



開会式イベント

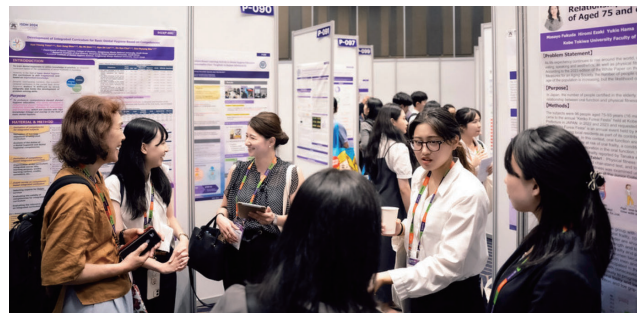
1995年に東京で開催されてから29年ぶり、アジアでは2回目の開催となりました。「お口の健康の中心である歯科衛生士」というメインテーマです。36か国から、ポスター発表135、口演発表103があり、歯科衛生士が研究したことを発表しました。日本からも173人の歯科衛生士が参加して、中には優秀賞をいただいた優れた研究もありました。その熱気に参加者も熱くなり、質問が多く出て時間が足りないほどでした。私たちも最新知識を学んで、自分の国でそれを活かすことができます。



招聘講演 藤原 奈津美 氏(日本歯科衛生学会 幹事)★



座長 宮澤 絢子 氏(日本歯科衛生士会 国際協力委員会 副委員長)★



ポスター発表会場★

上記の★画像の出典元:大韓歯科衛生士協会 国際歯科衛生シンポジウム 2024 ウェブサイト 写真ギャラリー



左から、ベスト口演発表賞 安達 奈穂子氏(東京医科歯科大学)
ベストポスター発表賞 三好 早苗 氏(広島県歯科衛生士会)

世界の歯科衛生士との友情を育む

世界中の歯科衛生士が集まるといって、英語は話せない、そもそも気後れすると感じる方もいらっしゃると思います。私もその一人です。でもこのたびは翻訳アプリを携帯電話に入れ、少し練習をしてから参加しました。そのおかげでコミュニケーションをとることができました。深い話まではできないのですが、なんといっても笑顔と挨拶です。何回も会場で顔を合わせるうちに、すれ違う時に手を挙げ挨拶をすると、笑顔が返ってきます。みんな、自分の患者

さんに全力を尽くして歯科衛生士として頑張っているのだと思うと、とても力をいただきました。

青森の歯科衛生士養成校の学生さんが参加していました。学生のうちから世界をみられるって素敵です。きっと歯科衛生士として働くようになって、この経験は忘れられないことだと思います。また同郷の診療所から一念発起して参加している歯科衛生士にも会うことができました。その方々の感激のコメントも紹介いたします。



参加した歯科衛生士のコメント

ISDH2024に参加できたことは、とても光栄に思っています。恩師とお話して、私もいつかAAP(アメリカ歯周病学会)に行ってみたいとお伝えしたところ、「それなら、まず、ISDHよ、絶対楽しいから!」とアドバイスがあり、ISDHを知りました。今年は韓国で開催とのこと。私でも行くことができると、「世界の歯科衛生士と少し触れ合うことができたらいいな」という気持ちで参加しました。

想像を超える楽しさと感動でした。英語は、ちっともわかりませんが、演者や質問している方々は英語でやりとりしています。その場の雰囲気だけでも圧倒と感動です。

ガラディナー(Gala Dinner: 祝賀パーティ)では、日本では同じテーブルにつくことのできない方々とお会いできました。いつも冊子で拝見している方々を目の当たりにして感動しました。

韓国の歯科衛生士の方々とも交流することができました。韓国全土で教育をしている歯科衛生士の教員でした。彼女は4年制を卒業し、韓国の歯科衛生士をアメリカのように独立した業務ができるように頑張っているとのことでした。

会場は全てにおいて活気と熱気がある状態で、テレビが映画を見ているような世界でした。もしかすると、まだまだISDHのことを知らない歯科衛生士も多いのではないかと感じました。私もそうでしたから。歯科衛生士会に入会していれば、参加費用も一般より優遇されています。歯科衛生士会に入っていてよかったと思いました。

小川 希和子(佐賀県歯科衛生士会)

今回初めて、国際歯科衛生シンポジウム(ISDH)に参加しました。先輩より「ISDHは活気があり楽しいみたいよ!」と話を頂き、個人的に知人と2人で参加をすることを決め、何度も打ち合わせし、ドキドキしながら手続きを進めました。知らない土地での登録や移動でしたが、実際に参加してみると日本では見られない世界がありました。各国で発売、使用されている機械や材料、話題となっている内容が記載されたポスター発表、歯科衛生士の活動方法やこれから必要とされることの講演が行われました。

それだけでも刺激的でしたが、ディナーで一緒させていただいた韓国(大韓歯科衛生士協会)の歯科衛生士の方と翻訳アプリを使い、世界ではどんな環境で歯科衛生士が活躍しているのか、仕事とプライベートをどのように両立させているのかなどを語り合いました。短い時間でしたが、内容の濃い時間を過ごすことができました。また、ディナーではドレスアップをして交流を楽しむ皆さんの姿はユーモア溢れた時間でした。日本の歯科衛生士も、もっと一人ひとりが自立して活躍できるのではないかと思います。同じ目標を持ち、歯科衛生士の切符を手にした皆さんが、活躍できるシステムが日本でもあるのではないかと思います。まずは、その一歩として歯科衛生士会に所属し情報を得ること、また、得た知識や情報を日々の診療で生かすことが大切だと改めて感じました。チャンスは自分で掴む。Just do it!

今回お会いできた皆さんに感謝申し上げます。

島川 由佳(福岡県歯科衛生士会)

国際歯科衛生シンポジウム(ISDH) 開催予定

- 2026年7月9日~11日 イタリア(ミラノ)
- 2028年6月 アラブ首長国連邦(ドバイ)
- 2030年 オランダ(ロッテルダム)



2024年国際歯科衛生シンポジウムウェブサイト
「写真ギャラリー」



IFDHウェブサイト

国際歯科衛生シンポジウム ウェブサイト 「写真ギャラリー」では、本記事で引用した画像以外にも、開催会場の画像が多数保存されています。

また、IFDHのウェブサイトには歯科衛生活動に役立つ論文や情報が掲載されていますので、ご案内いたします。

(日本歯科衛生士会 広報委員会)